

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスにこり		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日		～ 2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケアがある中でも生活と体験を止めない支援	利用児の医療的ケアや体調に応じた看護職員の配置を行い、日常生活の中で無理なくケアが実施できる体制を整えている。バイタルチェックや状態観察を日常的に行い、小さな変化にも気づけるようスタッフ間での情報共有を徹底している。また、医療機関や訪問看護と連携し、必要時には迅速に相談・対応できる体制を確保している。	医療的ケアに関する内部研修や事例共有を定期的に行い、職員全体の対応力向上を図る。ヒヤリハットやインシデントの蓄積・振り返りを通して再発防止に努め、安全性の高い支援体制を継続的に構築していく。また、多職種連携を強化し、医療・福祉双方の視点から支援の質を高めていく。
2	リスク管理を前提に「できる方法を設計している」	「できない理由」ではなく「どうすればできるか」を前提に、子ども一人ひとりの状態に応じた支援方法を検討している。医療的ケアの有無に関わらず、同じ活動に参加できるようリスク管理と支援調整を行い、子どもが主体的に活動に関われる環境づくりを意識している。	個々の特性や興味関心の把握をより深め、成功体験につながる活動設計を強化する。また、活動内容の幅を広げるとともに、地域資源の活用や外出機会を増やし、より多様な体験機会の提供につなげていく。
3	個別対応+運営として再現性がある体制	家庭の状況や突発的なニーズに応じて、スケジュール調整や送迎対応等を可能な範囲で柔軟に行っている。利用児・保護者の状況を踏まえた個別対応を行い、安心して利用できる環境づくりを意識している。	安定した人員配置と業務の標準化を進め、柔軟な対応を維持しながら持続可能な運営体制を構築する。また、スタッフ間での情報共有や引き継ぎ体制を強化し、誰が対応しても一定の支援が提供できる仕組みづくりを進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境(スペース)	既存の建物を活用しているため、利用児の成長や活動内容の多様化に伴い、空間的な制約が生じている。	活動内容に応じた空間の使い分けやレイアウトの見直しを行い、限られた環境の中でも安全かつ効果的な支援が行えるよう工夫していく。
2	設備(姿勢保持・活動支援)	成長に伴い既存のクッションや座位保持用具では対応が難しいケースが増えており、個々に適した備品が不足している。	年齢や身体状況に応じた備品の整備を進め、姿勢保持や活動への参加がしやすい環境を整えることで、より質の高い支援につなげていく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもデイサービスにこり

公表日 2026年4月10日

利用児童数

10

回収数

7

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100%					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%					
適切な 支援 の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	86%			14%		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	86%			14%		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	86%			14%		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	86%			14%		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	42%		28%	28%		
保護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	71%			29%		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	86%			14%		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	100%					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	86%		14%			
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	86%			14%		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	86%			14%		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	86%			14%		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	86%			14%		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	86%			14%		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	86%			14%		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%					
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもデイサービスにこり			公表日		2026年 4月 10日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9%			91%
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		9%	91%	基準を満たした職員配置を行い、医療的ケア区分に応じた看護師配置を実施している。	実際の支援場面では人手不足を感じる場面もあるため、業務効率化と適切な人員配置の最適化を図る。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		91%	9%	子どもが主体的に行動できるよう、分かりやすい環境設定や導線づくりを意識している。	視覚的支援（絵カード等）や多様な感覚への配慮を強化し、より理解しやすい環境づくりを進める。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		91%	9%	毎日の清掃・消毒を実施し、清潔で安心できる環境を維持している。	定期的な大掃除や環境点検を強化し、より快適な空間づくりを継続する。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		91%	9%	個々の特性に応じて、落ち着ける空間や集中できる環境設定を行っている。	より安心して過ごせる環境となるよう、個別対応スペースの確保や環境調整を検討する。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		個別やICTツールを活用し、職員の意見を収集し改善に活かしている。	全体での振り返り機会を確保し、組織的なPDCAサイクルの強化を図る。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		保護者からの意見を共有し、改善策を検討・実施している。	意見の分析と改善プロセスの可視化を進め、より実効性のある改善につなげる。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	91%	9%	職員からの意見を積極的に収集し、共有している。	意見を組織的に整理し、継続的な改善につなげる仕組みを強化する。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		外部からの意見を受け入れる機会を持っている。	第三者視点の評価をより積極的に取り入れ、客観的な改善につなげる。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		法人内外の研修機会を確保し、職員のスキル向上を図っている。	研修内容の共有・実践化を進め、支援の質向上に確実につなげる。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		職員の意見を取り入れた支援プログラムを作成している。	支援内容の定期的な見直しを行い、実態との整合性を高める。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		保護者との連携を密にし、ニーズを反映した支援計画を作成している。	アセスメントの精度向上と多角的視点での分析を強化する。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		多職種での評価・検討を行い、支援計画に反映している。	職種間連携の質を高め、より統合的な支援につなげる。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	91%	9%	支援計画の共有と日々の情報共有を徹底している。	情報共有の精度を向上させる。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		評価ツールと日常観察を併用している。	評価の客観性を高める。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		ガイドラインに基づいた支援計画を作成している。	より個別性の高い支援内容にする。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		チームで活動プログラムを検討している。	全職員が関われる体制づくりを進める。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		活動内容を柔軟に調整している。	活動の幅を広げる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	91%	9%	個別と集団活動を組み合わせている。	個別支援の質を高める。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	91%	9%	ICTを活用した情報共有を行っている。	対面での打ち合わせ機会を確保する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	91%	9%	ICTを活用し支援の振り返りを共有している。	対面での振り返り機会を確保する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	82%	18%	支援記録を徹底している。	記録の質を向上させる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		定期的にモニタリングを実施している。	分析の精度を高める。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%		基本活動を組み合わせ支援を行っている。	支援バランスを強化する。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	100%		自己選択を促す支援を行っている。	選択機会をさらに増やす。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		適切な職員が会議に参加している。	共有体制を強化する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		関係機関と連携している。	連携頻度を高める。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	91%	9%	情報共有を適切に行っている。	直接的な連携を強化する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	91%	9%	内部連携を行っている。	外部連携を強化する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	91%	9%	現状に応じた対応を行っている。	将来的な体制整備を行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	82%	18%	必要な情報提供を行っている。	継続的な連携を強化する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	55%	45%	地域活動の検討を行っている。	具体的な実施につなげる。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	64%	36%	参加意識を持っている。	実際の参加機会を増やす。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		保護者と密な連絡を行っている。	情報共有の標準化を図る。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		個別に相談対応を行っている。	支援の体系化を進める。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		丁寧な説明を行っている。	継続的な改善を行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		意向を尊重した支援を行っている。	意向の把握精度を高める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		同意取得を適切に行っている。	理解促進を図る。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		相談対応を行っている。	支援の質を向上させる。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		交流機会を提供している。	機会の拡充を図る。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		日頃から保護者との信頼関係構築を意識し、相談しやすい環境づくりに努めている。	苦情対応や相談対応について、より組織的な体制整備と迅速な対応の質向上を図る。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	91%	9%	SNSや写真・動画の共有を通して、日々の活動や様子を保護者へ発信している。	情報発信の内容や頻度を見直し、より分かりやすく伝わる発信方法を強化する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	91%	9%	個人情報の取扱いに配慮し、適切な管理を行っている。	全職員への周知徹底を継続し、情報管理体制のさらなる強化を図る。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		子ども一人ひとりに応じたコミュニケーション方法を用い、意思疎通を図っている。	多様なコミュニケーション手段の活用を進め、より円滑な意思伝達ができるよう工夫する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		地域イベント（おまつり等）を通して、地域とのつながりを意識した運営を行っている。	地域との関わりをさらに広げ、日常的な交流機会の創出を検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	91%	9%	各種マニュアルを整備し、緊急時対応に備えている。	マニュアルの内容を職員および保護者へより分かりやすく周知し、実効性を高める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	91%	9%	定期的に避難訓練を実施し、非常時に備えている。	訓練内容の見直しや多様な想定を取り入れ、実践的な対応力の向上を図る。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		子どもの健康状態や服薬等の情報を事前に把握し、共有している。	情報の更新頻度や共有精度を高め、より安全な支援体制を構築する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		食物アレルギーについて保護者からの情報をもとに対応している。	医療機関との連携を強化し、より安全性の高い対応体制を整える。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	91%	9%	安全計画に基づき、日常的な安全管理と訓練を実施している。	安全に関する研修や訓練内容を充実させ、職員の危機管理意識の向上を図る。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		安全計画に基づき、災害時の対応や事業所での取り組みについて、保護者へ適宜情報提供を行い、家庭との連携を図っている。	安全計画の内容や取り組みについて、保護者への理解がより深まるよう、伝え方や周知方法の工夫を行う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハット事例を速やかに共有し、職員間で再発防止に向けた意識づけを行っている。	事例の分析をより深め、再発防止策の具体化と仕組み化を進める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		虐待防止に関する研修や定期的な振り返りを実施し、職員の意識向上に努めている。	研修内容の理解を実践につなげるとともに、日常的に意識できる仕組みづくりを強化する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	82%	18%	身体拘束に関するルールを整備し、必要時には事前説明と同意を得た上で適切に対応している。	身体拘束に関する考え方や対応について、保護者への説明の充実と職員間での理解の統一を図る。	